



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和2年4月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数376人

令和2年度 スタートです

校長 清水 励

突然の休校から約1か月、久し振りに子供たちに会えることを楽しみにしていました。しかし、埼玉県も「緊急事態宣言」の対象となり、鴻巣市内の全小・中学校は、5月6日（水）まで臨時休校を継続することとなりました。「入学式」は延期、「始業式」は中止となり、多くの子供たちが、直前の予定変更にがっかりしているのではないのでしょうか。保護者の皆様におかれましても、臨時休校による各御家庭での生活上の御心配が様々な面で生じていることと思われます。もしも、お子さんのことで御心配なことがありましたら、臨時休業中でも構いませんので、遠慮なく学校へ御相談くださいますようお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大状況は、常に予断を許さない「今が瀬戸際」という状態が長く続いております。最後の切り札といわれる「緊急事態宣言」が出されましたが、結局のところ最も大切なことは、私たち一人一人が「**どれだけ危機感をもって判断し行動できるか**」なのではないのでしょうか。「感染してからでは遅すぎる」「自分を守ることは人を守ること」と改めて心に刻み、外出を控えることはもちろんのこと、日常生活での行動（人と話す時の距離等）を再度見つめ直していきたいと思えます。

さて、臨時休業という異例の形でスタートした令和2年度。長期間の学校休校により、子供たちの「学ぶ機会の損失」が懸念されます。主に話題に上がるのは、子供たちの「体力」と「学力」の低下です。ある民間団体が休校中の保護者に行った調査によると、「学校休校により子供への影響で心配することは？」という問いに対して、一番多かった回答は「体力の低下」だったそうです。（以外にも「学力」ではありませんでした。）しかし、最も心配されることは、**子供たちの「心」の成長に関わること**ではないのでしょうか。子供たちは、日々、テレビなどから流れる新型コロナウイルスの不安なニュース（世界中で大流行、治せる薬がない、有名芸能人の死、物資の供給不足、終わりが読めない 等）を見聞きし、「この先どうなるんだろう？」「自分の家族がかかったらどうしよう…」等、出口の見えない大きな不安の中で生活しています。また、人と接する際にも「原則として離れる」というルールの中での生活となり、これまで肌と肌で感じ取っていた相手の思いや存在感、そして、そこから得ていた人とのつき合い方や安心感が失われます。「心」のダメージはすぐには分かりづらく、長い時間をかけながらじわりと、けれども確実に子供たちに影を落とすものと思われます。

私たち大人は、このような中で生活している子供たちのことを知り、これまで以上に気と目と声を配り、体の距離は離れても、**心の距離はこれまで以上に近づける努力が必要だ**と思えます。学校としても、今できることを全職員で考え、子供たちが明るく元気になれるものをお届けしたいと考えています。御家庭におかれましても、学年に応じて、新型コロナウイルスについての不安を聞き取り、親子でその不安を共有しつつも、安心できる材料を伝えることも必要ではないのでしょうか。

令和2年度、本校も新たな教職員を迎え、子供たちの健全な成長のために全力で取り組んでまいります。保護者の皆様には、例年以上にお願いすることや、突然の予定変更（※）等で御心配と御迷惑をおかけいたしますが、是非とも変わらぬ御理解と御協力をお願いいたします。

※4, 5, 6月の学校行事は、延期・中止となります。